

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和5年6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
13	(事業名・地区) 佐陀川 広域河川改修事業 (事業位置) 松江市鹿島町恵曇 ～鹿島町名分 (事業費) 8,815,000 千円 (事業概要) 全体延長 L=3,200m 築堤、護岸、掘削 河床浚渫 (事業主体の根拠) 河川法第9条2項 (再評価区分) ④再評価実施後5 年経過し継続中 (担当部課名) 土木部河川課	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度: 1997(H9)年度 用地着手年度: 1997(H9)年度 工事着手年度: 1997(H9)年度 完了予定年度: 2045(R27)年度 経過年数: 26年 (進捗状況と今後の見込み) 令和5年当初までの事業費で進捗率を記載 進捗率: 29% 用地: 28% 工事: 26% 令和27年度完了予定	(事業導入の経緯・目的) 佐陀川は、増水時に流下能力不足（断面不足）に加え、日本海と宍道湖の潮位の影響も受けやすく、降雨時以外の場合でも浸水被害が発生する箇所であり、特に昭和47年7月の梅雨前線による豪雨時には、宍道湖水位が上昇したことにより、当河川流域へも多大な浸水被害をもたらしたことから、河川改修を行うこととなった。 (事業を取り巻く社会情勢) 河川に並行している主要地方道や市道の改良工事など原発避難路としての周辺交通網の整備が進められており、これら道路整備と併せて、流域全体の浸水被害の解消が望まれている。 ソフト対策として、島根県水防情報システムにより雨量、水位や河川カメラ映像を配信し、防災意識の向上を図っている。 (事業に対する地元情勢・計画の熟度) 平成24年に佐陀川河川改修事業促進期成同盟会発足し、早期の河川改修を熱望されている。	(費用対効果) b / c = 1.34 (コスト削減・代替案等) 事業の実施にあたっては、土堤の採用や残土の有効利用等のコスト削減に努めている。 (その他の効果) 河川改修と周辺の道路整備が一体となり、生活基盤の安定を図ることができる。	(生活環境・自然環境への影響) 環境配慮の取組状況 ・共通配慮事項 別添『取組シート』のとおり (事業を中止した場合の影響) 未改修区間は堤防高が低く、潮位や出水の影響により継続して浸水被害が発生する可能性が高い。 ・浸水被害履歴 S39、40、44、47、56、61、63 H元、4、6、12、14、15、16、 H18、22、23、24、25、29 R4 S47: 床上35戸、床下267戸、 浸水面積754ha（佐陀川流域全体） ※うち計画区間内 床上10戸、床下67戸、浸水面積44ha	(方針案) 継続 (継続・中止の理由) 現況流下能力は著しく低く、原発災害時の重要な避難経路にもなる主要地方道を含めた周辺地域で度重なる冠水が発生していることから、流域住民の生命・財産を保全し、民生の安定を図るためには治水対策は必要である。

佐陀川 広域河川改修事業

河川概要

佐陀川は宍道湖から旧鹿島町の中心市街地を流下し日本海に注ぐ河川延長8.35kmの一級河川であり、江戸時代の1785(天明5年)に運河と宍道湖の放水路として整備された人工水路である。

本河川は日本海と宍道湖を結ぶことから、水面勾配がほとんど無く、潮位変動の影響により流向が変化する河川である。S47年の宍道湖の洪水では水位上昇により佐陀川の堤防を越え大きな浸水被害が発生した。近年でも、日本海の高潮やH18年の洪水によって沿川の家屋浸水被害が度々生じており、重要な課題となっている。

佐陀川の河川改修を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たす。

事業概要

1. 年超過確率1/10規模の洪水に対して、旧鹿島町市街地の浸水被害の解消を図る。(先行してH18対応の整備を実施中=暫定施工)
2. 河川の拡幅、河床の掘削、堤防の築造、橋梁の改築により流下能力の向上を図る。

